

大分県のスギの伝来経路についての一考察

大分県緑化推進課 長 野 愛 人
古 田 康 夫

はじめに

スギの品種については、大分県では日田地方を中心に多くのさし木品種が存在しており、古くからある在来品種、最近選ばれた育成品種があり、林業経営者の好みに応じて植栽されているが、そのスギの伝来経路については明らかでない。

大分県のスギは、屋久島、魚梁瀬、中国山脈の背梁部から中央山脈の北寄り、或いは秋田県のような天然林もなく、スギの伝来については宗教等による断片的な古い伝えはあるが、憶測の限りで明らかなる文献もないので、大分県におけるスギの実態と伝来経路を探究する為調査をし、将来の資料とするものである。

調査の方法

第一次一斉調査は、1975年に行い以後逐次検討を加えてきた。対象は、推定樹令200年以上とし、品種識別方法は、九州地方におけるスギ優良品種の見分け方(農林省林業試験場石崎博士)により調査識別をした。

現地調査で、樹令については可能なかぎり文献、聞き取り等により調査したが、明確な数値を得ることが困難なものは推定値となった。

品種識別については、基本型で判別困難なものは、○○系統で処理したものがあった。

所在箇所別では、神社と仏閣の区別の困難なところは、一般的に日常の祭りごとで神事でやっているところを神社、仏事で行っているところを仏閣とした。

結果および考察

所在箇所別及び品種別での調査結果は表-1のとおりであり、所在箇所では大部分が神社に残っている。品種別ではホンスギ、アオスギが多く、しかも350年以上になると両品種に限られ、他の品種は見当たらない。

分布の状況は、アオスギが県下全域に生存しており、地域における特徴は現われていない。ホンスギは、日田地方、山国川上流、湯布院町、久住町及び飯田高原に現われており、他の地方には見られなかった。

ヤブクグリ、アヤスギは日田、玖珠地方で確認されたにすぎない。ヨシノスギ、クマントスギは、ともに日田郡中、上津江村で確認された。これらの結果から、神社に多く生存し、しかも高い樹令のものがあり、スギの植栽と宗教とは密接な関係が伺われる。

ホンスギの生存箇所を検討してみると、日田及び山国川上流地方では、ヒコサンスギ、トヤマスギ、コウ

表-1 大分県におけるスギ老木調査表

樹令階別	所在地別			品 種 別						
	社 社	仏 閣	そ の 他	ホンスギ	アオスギ	アヤスギ	ヤブクグリ	ヨシノスギ	クマントスギ	判別困難
200年未満	9	1	3	16	40	8	6			45
200～300	41	3	9	343	166	14	7	8	2	105
300～400	30	4	1	110	156					47
400～500	15	1	1		162					1
500～600	11		1	50	56					
600～700	6		1	10	15					
700年以上	9		1		44					
計	121	9	17	529	639	22	13	8	2	198

ラスギと呼ばれ植栽されたものがホンスギである。

宗教よりみると、英彦山は、伊勢、熊野、比叡山、立山等と並び称された九州地方の修験の雄とされ、各地に霊場、行場があった。山国川上流に桧原山、日田に戸山、久住、飯田のホンスギの生存する近くに阿蘇山、九重山がある。湯布院盆地の仏山寺は400年前は天台宗で霊場鶴見山の修験者の行場であった。

英彦山を開山した役の小角が行場であった小石原に杉を栽培したと記されている。役の小角が実在したかは別として、霊場英彦山、行場小石原のスギと県下に生存するホンスギは、修験者を通じ密接な関係があり、ホンスギの伝来経路は英彦山と考えられる。

アオスギは、県北部では宇佐八幡の御許山を始め、山国町の諏訪神社、院内町の月俣神社、国東半島では、六所神社、楽庭八幡を始め六郷満山の各所にある。

県中南部では湯布院町の大杵社、別府市の朝見神社

大分市の高屋神社、庄内町石上大明神、津久見市落野浦、宇目町鷹鳥屋神社に貴重なアオスギがある。

大野川流域では、久住町宮廻野神社、直入町粉山神社、千歳村柴山八幡を始め各所に多く生育している。

日田、玖珠地方では、九重町栗野牧口神社、玖珠町三島神社、天瀬町玉来神社、中津江村宮園神社等々にある。このようにアオスギは、県内各地に生存している。アオスギの伝来経路については、神社、仏閣等の勧請に至る経過、或いは人物の往来、特に宇佐八幡、六郷満山は、京洛、伊勢、熊野、越中等が多い。筆者らもこれらの地域及びスギの天然林の各地を視察したが、大分県に分布するアオスギは中央山脈北寄りの立山地方のスギと同一のものと考えられる。

大分県下のスギ造林地の品種別の分布についての1975年の調査結果は表-2のとおりで、ヤブクグリ、実生スギ、アヤスギの順に植栽されている。

表-2 大分県におけるスギ造林地の品種別調査表

品種別	計	実生スギ	ホンスギ	アオスギ	アヤスギ	ヤブクグリ	ウラセバル	オビスギ	その他
造林面積	143,858	23,888	2,109	6,952	20,870	67,209	4,605	14,404	3,821
%	100	16.6	1.5	4.8	14.5	46.7	3.2	10.0	2.7

アヤスギの造林地調査では、樹令の高いものは日田、玖珠及び直入郡に見られ、他の品種より古く植えられた経過もある。アヤスギは極めて品種としては幅が狭いことが認められる。このことは生存過程の中において、外的環境の厳しさに耐え、特定の幅の狭いスギ品種となったものと思われる。

アヤスギの伝来経路をみると、阿蘇山の火山に起因する生存制圧を受けこれに耐えた品種で、大分県に伝わった経路は、阿蘇地方から阿蘇を中心とする県境より伝来したものと考えられる。

ヤブクグリは、日田、玖珠地方が中心で順次その周辺に及び、戦後拡大造林の推進とともに広がった。ヤブクグリを調査すると、品種識別の各要素ともにアヤスギ等に比較すると随分幅が広い、また、ヤブクグリ種の老樹があった事実も見出せなかった。

日田地方は、古くから直ざし、さし木育苗が行われており、その優れたさし木技術によって、ヨシノスギ系実生スギより創出育成された品種と考えられる。

その他の品種については、日田地方を中心として、ウラセバルスギ、クマントスギ、モトエスギ、ヒノデ

スギ等々のスギがあるが、これらもヤブクグリと同じ経路をたどり創り出されたものと思われる。

おわりに

スギの老樹を調査し、スギの伝来経路について調査を進めたが、なお部分的に探究を行う必要があり、今後更に詳しく調査することとしている。

なお、この調査後にいくつかの調査もれも見出されたので更に追加したい。

最後に、この調査にあたり、一般、市町村、森林組合、県事務所林業課職員等多数の方々への御協力に対し感謝の意を表します。

引用文献

- (1) 渡辺澄夫：大分県の歴史，1975
- (2) 大分県教育委員会：六郷満山関係文化財総合調査概要，1976
- (3) 松岡実：大分県修験史料，豊日史学会，1957
- (4) 武谷英山房蔵，松岡実校：北九州修験秘録，山村民俗の会，1958